

“絆”きずな

在宅リハビリテーション従事者研修会
【通所介護・通所リハビリテーション編】

在宅リハビリテーションでは、「高齢であっても、認知機能の低下があっても、障がいがあっても、病気療養をしても、心身機能の回復だけでなく、その人の持っている強みを活かして役割や社会活動に繋げる暮らし作り」が求められています。しかし、これまで通所介護・通所リハビリテーションに従事する療法士のための系統的な人材育成プログラムがなく、各事業所において手探りで運営がなされてきた経緯がありました。

本研修会では、通所介護・通所リハビリテーションの運営の基礎から、実務の具体的な進め方、これからの療法士の役割に関してトータルに学べるカリキュラムを、三協会合同で初めて企画しました。現在、通所施設で勤務されている方だけでなく、これから勤務を予定されている方や病院勤務の方もご参加いただくと幸いです。

【通所介護編】

日 時：2019年12月14日（土）～15日（日）
場 所：田町イーストウイングビル6階（東京都港区芝浦3-5-39）
サテライト会場：名古屋・兵庫・福岡
申込期間：2019年10月15日（火）～10月29日（火）

【通所リハビリテーション編】

日 時：2020年1月25日（土）～26日（日）
場 所：田町イーストウイングビル6階（東京都港区芝浦3-5-39）
サテライト会場：名古屋・大阪・福岡
申込期間：2019年11月1日（金）～11月15日（金）

※申し込み・問い合わせ：事務局代行 株式会社gene
プログラムは両編共、訪問リハ振興財団・株式会社geneのホームページをご参照下さい。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介 沖縄県編

沖縄の方言「なんくるないさー」をご存じでしょうか。標準語で直訳すると「なんとかなるさ」の意味。しかし、本来の意味はもっと深いのです。「なんくるないさー」は、「真（ま）くとう）そーけー、なんくるないさ」といい、「人として真実を貫き、正しい道を歩んで努力をしていけば、道は開け、良い日が訪れる」という意味です。

沖縄の訪問リハセラピストはこのような信念をもって利用者を支援し、誇りを持って沖縄の未来の医療・福祉に携わっていきたくと考えています。

これからも、沖縄県は、3士会が協力して、未来の地域作りの活動をしていきます。



沖縄県訪問リハ・地域リーダー 作業療法士

末吉 珠代

医療法人おもと会 クリニック安里訪問リハビリテーションセンター

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介 鹿児島県編

鹿児島といえば、屋久島や桜島、黒豚を思い浮かべると思いますが、鹿児島県は離島が多く、鹿児島県全体の面積の約27%を占めています。そこで生活している人たちは約18万人で、離島の面積と人口は日本一です。その中の十島（としま）村は、北にある口之島から、もっとも南にある宝島までの距離が約130キロメートルあり、長さ日本一の村です。

このような土地の影響があるとも思いませんが、鹿児島県ではいち早く 一般社団法人 鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会を立ち上げ、3協会が協力し、鹿児島県訪問リハビリテーション研究会としての活動を円滑に遂行しています。これも、各会長の人望によるところが大きいと思います。

鹿児島県のご当地自慢は、3士会長のもと力を合わせて活動していることです。

鹿児島県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士

弥栄 博文

医療法人七徳会ザ王病院